

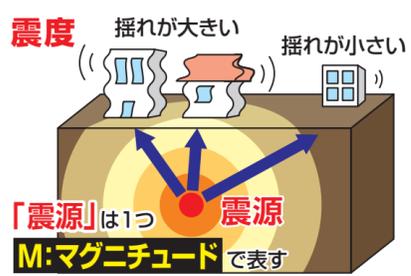
# 地震災害

震度分布



**M:マグニチュード** は地震そのものの大きさ(規模)を表す「ものさし」です。

**震度** はある大きさの地震が起きた時の私たちが生活している場所での揺れの強さを表します。例えばマグニチュードの小さい地震でも震源からの距離が近いと地面は大きく揺れ**震度**は大きくなります。



**震度4**

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が倒れることがある。

**震度5弱**

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

**震度5強**

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

**震度6弱**

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

**震度6強**

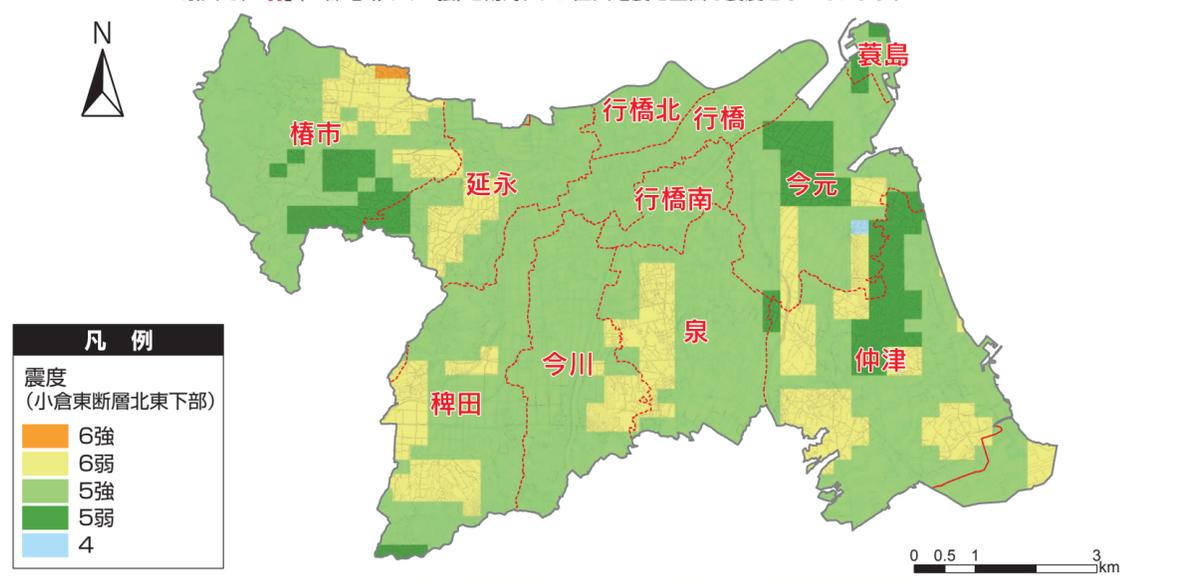
- はわないと動くことができな。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

**震度7**

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

## 小倉東断層北東下部に起因する地震の想定震度分布図

※南海トラフ巨大地震の想定震度は、M7.1~7.6の地震が発生した場合に、市域における震度の目安は「5強」程度という資料が発表されていますが、小倉東断層北東下部に起因する地震の想定震度は、最大で「6弱」(一部地域のみ6強)と南海トラフ巨大地震を上回る震度となっています。



# 地震災害 地震から身を守るために



まずは自分の身の安全を確保しましょう!



## 日ごろから、地震が起きたときの行動をイメージしておきましょう。

**地震発生** 落ち着いて!まずは自分の身の安全を確保しましょう。

**1~2分** 揺れがおさまったら、火元を確認する  
コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。火が出ていたら消火する。

**3分** 靴をはき、ガラスの破片などから足を守る。 ドアや窓を開けて逃げ道を確認する

**5分** 家族の安否確認 ラジオなどで正しい情報を確認  
間違った情報やうわさなどにまどわされないように!

**5~10分** 避難途中の注意! ブロック塀やガラスに注意する。車は使用せず、徒歩で避難する。

**10分~数時間** 余震に注意! 崩れる危険性がある建物には近寄らないこと

**1~3日 くらい** 生活必需品は備蓄でまかなう  
災害発生から3日程度は、外部からの応援は期待できない。

土砂災害の恐れがある場合はすぐに避難する

家を出る前に電気のブレーカーを切る。

隣り近所の安全を確認  
一人暮らしの高齢者には積極的に声をかけ、安否確認する。必要であれば避難の補助を行う。

消火・救出活動  
隣り近所で協力して消火や救出活動を行う。

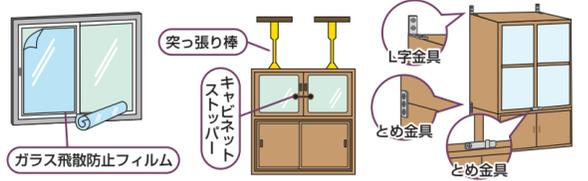
災害情報、被害情報の収集  
市の広報に注意する。

避難生活では 自主防災組織を中心に行動する。集団生活のルールを守る。助け合いの心で!

## 家具の配置・設置方法を確認する

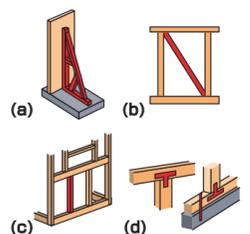
### ■屋内の安全を点検

- 家具転倒防止器具、突っ張り棒、滑り止めシート、キャビネットストッパー、耐震ジェル等の設置
- ガラス飛散防止フィルム、カーテン等で、ガラスの飛散を防止
- 家具・棚の上の装飾品などの落下防止処置



### ■木造家屋の構造補強

- (a) 添柱などの建物の外側からの補強
- (b) 筋交いなどの補強
- (c) 柱の増設
- (d) 柱や梁などの交換、金具補強



### ■安全な就寝場所

寝ている時に地震が発生した場合、家具などの下敷きにならないよう安全な就寝場所の確保